2018 年度 わがまち魅力化プロジェクト ～サステイナブルな地域社会の創生事業～
【 事業報告概要版 】

1．本事業の背景と目的

現在、わが国において少子高齢化、人口減少が進む中で、特に地方ではその影響が大きく、過疎や産業の衰退等、住民の暮らしに直結する課題が山積している。一方で、各地域には魅力ある資源（自然、文化・伝統、工芸、農水産物、歴史等）が存在しているのも事実である。多様性豊かな地域を残していくためには、その地域の魅力を発掘し、磨き、それを伸ばしていくことが必要であり、それが地域の豊かさや幸福へとつながる。さらに、そのような地域の魅力を効果的に発信することで、その地域に目を向けてもらい、交流やインバウンドにもつなげられる。各地域には、そのようなポテンシャルが存在する。

現在、日本各地で実践されている地方創生関連の多様な取組の中でも、地域課題の解決に導く一つの手段として、**「地域外」の視点や「若者」の視点の活用が注目**されている。しかし、地域外の若者（大学生等）が地域課題の解決に取り組む上で、活動の継続性や組織的な支援などの課題も指摘され、また地域と大学生との間を仲介するコーディネーター的な存在が不可欠との指摘もある。若者の発想と行動力を地方創生や地域の魅力化に資する力に変えていくためには、**地方と若者のつなぎ役としてシンクタンクの役割**も大きい。

本事業では、複数年の事業期間を想定し、1 年目の事業ステップとして、関連する全国の先行事例研究を行い、事例の類型化とともに活動推進上の課題等を整理した。さらに 2016 年（平成 28 年）より実践されている「日野町魅力化プロジェクト」（※）への参画を足掛かりに、日野町でのフィールドワーク等を通じて、サステイナブルな地域社会の創生に向けた取組のあり方等を検討した。それを踏まえ、2 年目（2018 年度）の事業では、**「日野町魅力化プロジェクト」への継続的参画とともに、わがまち魅力化プロジェクトのパッケージ化の検討・試行**、**実践フィールド（地域）の拡大のための新規アプローチ（訪問ヒアリング）**、**取組を推進するためのプラットフォームの枠組みの検討**を行った。

※日野町魅力化プロジェクトの概要

2016 年（平成 28 年）より、鳥取県日野郡日野町において、学生によるまち歩きプロジェクトを実施。プロジェクトの目的は、高齢化と過疎で悩む日野町をフィールドに、大学生がまち歩きや体験等を通じて、まちの課題や魅力を探ること。

- 2016 年、故・安田泰敏九段(囲碁棋士、元東京富士大学特任教授)が、地域おこし協力隊をハブとして大学生と町をつなぎ、双方の成長・発展につながるプロジェクトとして発案され始動。初年度は東京富士大学の企業ビジネス研究同好会の学生を中心に参加。
- 行政・地域（窓口：企画政策課、地域おこし協力隊、協力：町議会、地域住民（ホストファミリー等））と、都市と地方の学生（東京富士大学・鳥取大学・島根大学等）のコラボレーションにより実施。
- 日野町でのまち歩きや体験を通じて、「産業」「観光」「移住定住」等の側面から地域課題やまちの魅力を探り、学生から事業化アイデアを提案。
- まち歩きは年 1 回（2016 年～、夏季休暇中）実施。毎年、検討テーマを設定。

2．本事業の概要

（1）2017 年度（1 年目）

初年度の取組として、以下の点について重点的に**情報収集及び調査研究活動**を行った。

① 全国事例（先行事例）の情報収集

学生によるまち歩き活動等、地域活性化に向けた取組事例や取組促進のためのプラットフォーム等の情報収集・整理（先行事例研究）

➢全国事例（先行事例）を対象学生と派遣先、活動内容の特徴から分類。
➢10 事例について情報を収集・整理。活動推進上の課題は、主に❶参加学生の確保、❷新規・継続自治体の確保、❸事務局機能の整備（体制整備）に集約可能。

② 鳥取県日野町でのフィールドワーク

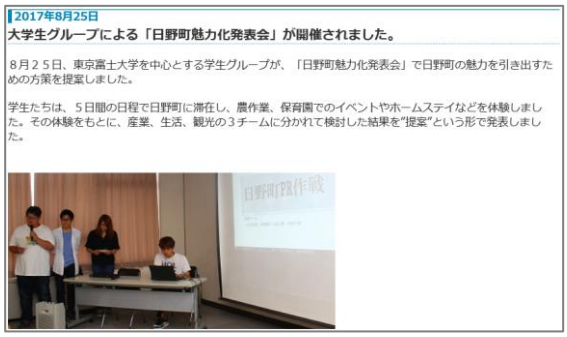
現地での地域情報収集・整理（地域住民や地域おこし協力隊等の関係者へのヒアリング）、日野町魅力化プロジェクトの実践活動への参画、フィールドワークから得られた示唆のとりまとめ。

フィールドワークの成果として、学生からの提案により、日野町の地域資源である「オシドリ」と「金持神社」を組み合わせ、“オシドリが取り持つ縁”をストーリー化した、**ご当地婚姻届「オシドリ婚姻届」が企画・制作**された。

フィールドワークは、**地元の日本海新聞、中海テレビ、鳥取県の Web サイト等で紹介**。

都市部の若者がホームステイ
日野のまちづくり研究
サイクリングツアーなど提言

日本海新聞（8/29 付）


2017年8月25日
大学生グループによる「日野町魅力化発表会」が開催されました。

8月２５日、東京富士大学を中心とする学生グループが、「日野町魅力化発表会」で日野町の魅力を引き出すための方策を提案しました。

学生たちは、５日間の日程で日野町に滞在し、農作業、保育園でのイベントやホームステイなどを体験しました。その体験をもとに、産業、生活、観光の３チームに分かれて検討した結果を“提案”という形で発表しました。

鳥取県 HP「日野ごよみ」
（http://www.pref.tottori.lg.jp/item/1090821.htm）

➢地域づくりの主体は、そこに住む地域住民である。地域住民と若者やヨソ者の力を融合しながら、地域住民が自ら地域のことを考え、行動していくことが、サステイナブルな地域づくりには不可欠。

“町民自らがこの地域のことを考え、実行すること”を前提に、「人づくり」「場づくり」「生業づくり」という観点から、今後の事業プランを日野町（行政）へ提案。

（2）2018 年度（2 年目）

初年度の取組を踏まえ、今年度は「展開・開発期間」と位置づけ、事業の基盤づくりに向けて、以下の点について重点的に**情報収集及び調査研究活動**を行った。

① 日野町魅力化プロジェクト（※）のプログラム化・パッケージ化

a.参加学生が目的意識と当事者意識をもって参画するための事前・事後のワークショップ、アンケート等をプログラム化・パッケージ化
⇒事前・事後の働きかけによって、日野町でのスムーズなプログラム進行や、参加学生と日野町との継続的な関係構築につながった。

b.既存の協力大学に加え、新たに他大学からも意欲の高い学生を募集
⇒既存の東京富士大学、島根大学、鳥取大学に加え、横浜国立大学、フェリス女学院大学、青山学院大学に拡大。学年も学部 1 年から大学院まで多様化。

c.参加学生を大学生だけでなく、地元の高校生も含める方策を検討
⇒高校生とのプログラム期間の調整が難しく、実現には至らず（今後の検討課題）。

（※）2018 年度の日野町魅力化プロジェクトは、2018 年 8 月 20 日～22 日までの 2 泊 3 日の短期集中プログラムにて実施。昨年同様、**地元の日本海新聞、鳥取県の Web サイト等で紹介**。

空き家やネット活用

首都圏アピプラン提案

日野町フェ

日野町魅力化プロジェクト

日本海新聞（8/23 付）

2018年8月22日

日野町魅力化プロジェクトが開催されました。

8月下旬、東京富士大学から４名、横浜国立大学から３名、青山学院大学、フェリス女学院と島根大学から各１名の計１０名の学生が、日野町に滞在し、日野町魅力化プロジェクトを実施しました。

このプロジェクトは、日野町をフィールドに首都圏と地方の大学生が協働で、町の魅力や課題を調べ、事業化へのアイデアを提案するもので、今年で３年目です。

学生たちは、３グループに分かれ、農家の方のご自宅やお寺に宿泊し、それぞれのテーマに沿って活動しました。
最終日には、学生たちによるプレゼンが行われました。

鳥取県 HP「日野ごよみ」
（https://www.pref.tottori.lg.jp/item/1138309.htm）

② 実践フィールドの拡大に向けた各地域へのヒアリング、情報交換

「日野町魅力化プロジェクト」で得られたノウハウや知見を、日本各地で同様の課題を抱える地域へ展開していく可能性を探るため、2 地域への訪問ヒアリング調査を実施。

➢同様に大学生を活用しようという試みもあったが、その成果は必ずしも施策に反映されていない（一方、日野町魅力化プロジェクトでは、学生提案の 5 案件が実現化）。
➢自治体の規模や地域の特色は異なるものの、日野町とも共通する政策課題が挙げられた（特にシティプロモーション）。

各自治体の実状に即した形で「魅力化プロジェクト」のプログラムを提案していくことで、新規自治体とのコラボレーションの実現化に近づく。

③ 取組推進のためのプラットフォームの枠組み検討

プロジェクト実施のためのネットワークを広げ、取組推進のためのプラットフォームを構築していくにあたって、プラットフォームの枠組み（設立目的や役割、機能、連携先候補等）を検討。

≪先行事例研究（1 年目）に見る取組推進上の課題と解決策≫

プラットフォームを構築し、中立的なシンクタンクである JRI・SDRC が運営サポートしていくことで、全国事例からみえる活動上の共通課題に対し、次のような解決策を導くことが可能。

❶参加学生の確保
- 既存の連携大学・学識者とのパイプ強化、過去の参加大学生の組織化
- 地方創生関連の学部を有する大学等への新規アプローチ

❷新規・継続自治体の確保
- 大学生や外部人材を活用している取組推進自治体への直接的アプローチ
- 同様の既存の全国事例（プラットフォーム）との連携、関係団体からの紹介、本プラットフォームの会員団体からの推薦等といった間接的アプローチ

❸事務局機能の整備（体制整備）
- 本プラットフォームの設立と JRI・SDRC の運営サポート

3．今後の事業方針

「わがまち魅力化プロジェクト」の 3 年目以降の事業方針として、以下の点からさらなる展開をしていく予定（これまでの継続含む）。

➤大学（参加学生）の新規開拓、実践フィールド（地域）の新規開拓
➤日野町での実績の他地域への応用可能性に関する F/S 調査
➤地方創生に関する全国先行事例調査（情報、ノウハウの蓄積）
➤プラットフォーム設立に向けた準備
➤地域における幸福度研究（地域住民へのヒアリング等、質的データの収集、データベースの構築）

発行　一般財団法人社会開発研究センター（SDRC）
一般財団法人日本総合研究所（JRI）